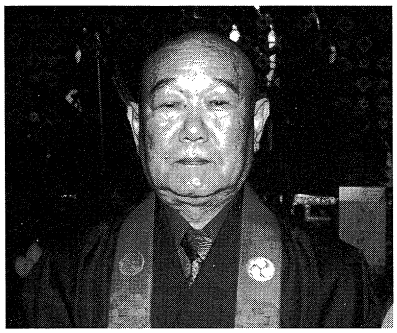
市仏連会報

発行所
横浜市中区大平町96
光明山西有寺内
横浜市仏教連合会
電話(045)661-0166

ご挨拶

横浜市仏教連合会
会長　斎藤隆法

暑かった夏も過ぎて、漸く爽やかな秋を迎えて、会員の皆様には御健勝にてお過ごしの事と拝察し、大慶に存じます。また平素は何かと御高配を賜り厚く御礼を申し上げます。



今年も後僅かな月日となりました。本年はオリンピックの年で、日本国中が開催地のオーストラリアのシドニーより送られてくる毎日のニュースに感動して湧きに湧いた日々でした。高橋尚子選手のマラソンレースでの金メダルのゴール、柔道選手の活躍、水泳の特に女性選手、他にもシンクロナイズ・スイミング競技など、総体的に女性の活躍がめだちました。各選手共日頃の精進努力が輝かしい結果を生み、私共に夢を与えてくれました。

夢といえば今年はプロ野球でも巨人軍とダイエーの日本シリーズで、いわゆるON対決は特に全国の子供たちの夢を叶えてくれました。今、私がこの原稿を書いている頃は始まる寸前ですから、当然、結果はわかりません。しかし、子供の夢を壊すようなプロ野球選手の行動もありました。夢を大事に育みながら大きく育てたいものです。

私共は常日頃より平和な世の中を望み、どうか世界中が平和であります。つねにと、法要の中で祈願します。しかし地球のどこかで紛争、揉め事が起きています。

オリンピックの五つの輪は地球の五つの大陸が、お互いにスポーツを通じて平和の輪を結ぶことが目的で出来たマークです。一日も早く地球全体が本当の平和を享受することを願いたいものです。

そして日本国内においても毎日のように、ニュースになる忌まわしい事件が頻発しています。来年こそ平和な年であったなあと、お互いに喜びを噛みしめる世の中でありたいと念じてやみません。

会員の皆様におかれては、御法体いよいよ堅固に日々お暮らし下さいますよう。そして御寺門のいやさかを念じ、寺族の皆様のご自愛専一、寺檀関係の良好を祈っております。

第二十七回総会開催

平成十二年度横浜市仏教連合会第二十七回総会は、五月二十六日午後二時より中区の西有寺において開催されました。市仏連会長斎藤隆法師の「限られた時間ですが、スムーズに和やかな内に終わりたいと願っております。…」との挨拶ののち議長の選出に入り、都筑区仏教会長の夏見邦夫師が選出され、議案の審議に入りました。

第一号議案の平成十一年度事業報告について、林田眞成専務理事から年間の主催行事と参加行事の説明があった。引き続き第二号議案では、会計橋下賢明師より決算報告についての説明があり、第三号議案の会計監査結果が監査役の内野公雄師より報告されました。第四号議案の質疑応答に入り、すべて異議なく出席者全員拍手をもって承認されました。

続いて第五号議案の平成十二年度事業計画案が、専務理事より提案されました。来年は主催行事の第二十六回涅槃会は瀬谷区仏教会が担当に当たっていること。市仏連会報は第五十一号、第五十二号が発行されること。特に参加行事の内、県慰霊堂奉仕については、以前より一月に当たる担当区より問題に上げられていた件で、齋藤市仏連会長が交渉の結果、明年の一月は取り止めとなった旨の説明がなされました。第6号議案に移り、平成十二年度予算案の説明が会計よりなされました。第七号議案である次年度事業計画案・予算案の承認に入り、質疑応答がなされ両議案通り可決されました。第八号議案の春の仏跡参拝旅行「静岡の臨済寺参拝と駿府城（葵博）」の件では、ピーエス観光より説明がありました。第九号議案の時局対策委員会運営の件では、葬儀に関するチラシ作成の方針が委員会より説明されました。第十号議案の「その他」では、ガン予防・ホスピス在宅ケア横浜大会開催における協力要請の説明が専務理事よりなされました。

次に、次期役員選考委員として、戸塚区・金沢区・栄区・瀬谷区・中区・西区があたることの報告がなされました。また、会計の予備費の在り方、会費納入の現状で、いろいろと活発なご意見をいただきましたが、議長審議は滞りなく終了し、斎藤隆法会長が閉会の言葉を述べて、第二十七回総会は無事閉会となりました。

このあと引続き懇親会に移り、話題が尽きぬ内に午後五時に散会となりました。

時局対策委員会報告

葬儀社との討議にむけて

委員長　佐藤功岳

今期の事業計画は、葬祭業者との討議テーブルの設営が中心でありましたが、この前段階として、各寺院へのリーフレット配布を行いました。

このリーフレットは、各ご寺院が、各山に於てコピーしていただき、檀徒はいうまでもなく、ご法事の折にも檀方ご縁者に配布いただくことにより、広範囲へのアピールを図りました。

今日現在でも、葬儀社の独断的運営に変化は見られず、奥ゆかしいご寺院を悩ませ続けております。古来より、葬儀とは故人を弔い、送るための宗教の儀式であります。しかし、今日では、葬儀社の都合（不見識？）や火葬場に隣接している立地条件から、こうした儀礼を変更し、故人、柩車を火葬場の入口でお迎えするという、まるで逆の指導までしております。誠にゆゆしい問題であり、このことを受け入れてしまったことは、大変遺憾なことと存じます。たとえ、小さな事例でも各寺院が宗儀に則り、毅然とした指導を行うべきと考えます。このことを怠れば、後悔すること大なるは、今日の葬儀事情が物語っております。

お届け致しましたリーフレットは、病院で臨終を迎え、間髪を入れずに出入り葬儀社に引き渡され、業者の思うままに葬儀日程が段取られ、通達のように菩提寺へ日取りが告げられ、納得のいかないまま葬儀を施行させられている幾多の現状の打破と、寺院と日程の打合せを行ってから段取りを始めるという最低のマナーの回帰を望むためであります。

しかし、現状をみるにこの最低のエチケットの普及さえも困難な事態となっております。

これらのことを、真摯に推進するためには、各寺院の強い結束が不可欠であります。

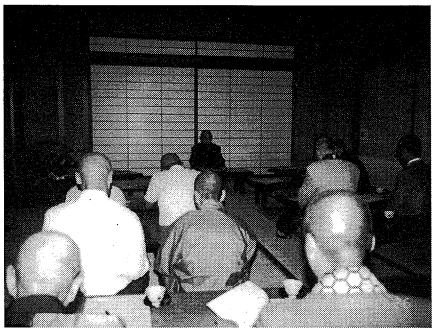
前回のアンケートの回収率は、寺院対象のアンケートとしては記録的な高回収率で、関心の高さが裏づけられました。

また、私共、意識を変え、世の中の業界団体と同様の展開をすべきことにもなってきてしまいました。是非共、絶大なる協力を切望いたしております。

尚、ある会社は、こうした点をとらえ、寺院が中心となるべく運営にて保険（東京海上）を基本にしたサービスをも開始しております。

そして、東京の日野地区では、仏教会が創立した葬儀社も活躍しており、利用者からは好評を博しております。

最後になりましたが、葬儀社とのテーブル設営の折には、是非各ご寺院の出席をいただき、仏教興隆の浄業ととらえてのご協力、お願い申し上げます。



平成十一年度事業報告

イ、主催行事

1、定期総会（第26回）　5・31
2、三役会（二回開催）
3、常務理事会（二回開催）
4、理事会開催（二回開催）
5、会計監査の実施（一回）
6、涅槃会の開催（於正福院）
7、記念講演（杉原顕道師）
8、時局対策委員会開催（四回）
9、市仏連会報の発行（49・50）
10、市仏連発の発行（十二回）
11、各支部活動に助成協力
12、県仏教会との相互連絡
13、祝電・弔電打電（六回）
14、仏跡参拝旅行（龍泰院他）

ロ、参加行事

1、市釈尊奉讃会行事参加協力
2、奉讃会旅行（永平寺、高山）
3、県仏教会行事に参加協力
4、会員主催行事に参加協力
5、県宗教連盟活動に参加協力
6、県慰霊堂奉仕活動の実施

11・6・7　瀬谷区仏
11・10・5　都筑区仏
11・11・5　緑・青葉区仏
12・1・5　南・港南区仏
12・4・5　神奈川区仏

県慰霊堂出仕当番表

平成13年1月　担当取り止め
平成13年2月24日　金沢区
平成13年4月　中区
平成13年6月　保土・旭区
平成13年10月　鶴見区
平成13年11月　戸塚区

第二十六回　涅槃会要綱

主催　横浜市仏教連合会・市釈尊奉讃会
担当　瀬谷区仏教会
日時　平成十三年二月六日（火）午後一時受付、法要、挨拶、講演
場所　日蓮宗、妙光寺（秋山智謙住職）
瀬谷区上瀬谷町八―三
電話（三〇一）二九八九
講師　真宗大谷派三寶寺（伊勢原市）住職、目崎法薫師
演題　『般涅槃』

涅槃会担当区予定

第26回 平成13年 瀬谷区
第27回 平成14年 泉区
第28回 平成15年 栄区

次期役員選考委員

次年度は、市仏連役員の改選年に当たる。次期役員選考委員は次の各区が担当となる。

戸塚区
栄区
瀬谷区
中区
西区

市仏連役員名簿

名誉会長　板橋興宗
顧問　志村慎吾
顧問　森山正成
顧問　滝川覚道
顧問　横山敏明
参与　福永隆昭
会長　齋藤隆法
副会長　玄野孝善
副会長　川上敬吾
専務理事　林田眞成
会計　橋下賢明
時局対策委員長　佐藤功岳
会報担当　備前恭忍
会報担当　関水俊道
監事　野沢隆幸
監事　内野公雄
常務理事　各区仏会長
（奉讃会事務局長　程木徳明）
（顧問　弁護士　遠藤隆也）

横浜市市仏教連合会 平成12年度歳入歳出予算書

総括表　歳入　金 2,977,214 円
　　歳出　金 2,977,214 円
　　差引額 0 円
（自平成12年4月1日　至平成13年3月31日）

歳入の部			
科目	予算額	前年度予算額	差引増減 △
①会費収入	1,308,000	1,308,000	
1. 会費	1,308,000	1,308,000	436
鶴見区	108,000	108,000	36
神奈川区	90,000	90,000	30
港北区	141,000	141,000	47
緑青葉区	123,000	123,000	41
都筑区	93,000	93,000	31
西区	84,000	84,000	28
中区	69,000	69,000	23
保土ヶ谷・旭区	84,000	84,000	28
南・港南区	168,000	168,000	56
磯子区	57,000	57,000	19
金沢区	78,000	78,000	26
戸塚区	111,000	111,000	37
泉区	36,000	36,000	12
栄区	42,000	42,000	14
瀬谷区	24,000	24,000	8
②雑部金	500,000	400,000	
1. 雑入金	200,000	150,000	
2. 寄付金及繰入金	300,000	250,000	
③過年度収入金	0	0	
1. 会費	0	0	
④前年度繰越金	1,169,214	1,163,529	
1. 前年度繰越金	1,169,214	1,163,529	
合計	2,977,214	2,871,529	

歳出の部			
科目	予算額	前年度予算額	差引増減 △
①総務費	370,000	370,000	
1. 事務所費	100,000	100,000	
2. 事務渉外費	200,000	200,000	
3. 通信交通費	70,000	70,000	
②需要費	270,000	270,000	
1. 会議費	200,000	200,000	
2. 庶用費	70,000	70,000	
③事業費	1,335,000	1,150,000	
1. 事局対策委員会費	200,000	200,000	
2. 涅槃法要費	485,000	400,000	経本500部印刷代
3. 会報発刊費	350,000	300,000	
4. 本講会事業協力費	100,000	100,000	
5. 仏陀参拝費	200,000	150,000	
④助成金・負担金	100,000	100,000	
1. 助成金	70,000	70,000	
2. 負担金	30,000	30,000	
⑤雑支出金	100,000	100,000	
1. 過年度支出金	0	0	
2. 雑支出金	100,000	100,000	
⑥予備費	802,214	881,529	
1. 予備費	802,214	881,529	
合計	2,977,214	2,871,529	

平成12年4月17日

上記のとうり歳入歳出の予算案を提出致します。

横浜市仏教連合会　会長　齋藤隆法
会計　橋下賢明

横浜市市仏教連合会 平成11年度収支計算書

総括表　収入　金 3,128,284 円
　　支出　金 1,959,070 円
　　差引額 1,169,214 円
（自平成11年4月1日　至平成12年3月31日）

収入の部			
科目	予算額	決算額	増減 △
①会費収入	1,308,000	1,308,000	
1. 会費	1,308,000	1,308,000	
鶴見区	108,000	108,000	
神奈川区	90,000	90,000	
港北区	141,000	141,000	
緑青葉区	123,000	123,000	
都筑区	93,000	93,000	31
西区	84,000	84,000	
中区	69,000	69,000	
保土ヶ谷・旭区	84,000	84,000	
南・港南区	168,000	168,000	
磯子区	57,000	57,000	
金沢区	78,000	78,000	
戸塚区	111,000	111,000	
泉区	36,000	36,000	
栄区	42,000	42,000	
瀬谷区	24,000	24,000	
②雑部金	400,000	656,755	
1. 雑入金	150,000	276,755	
2. 寄付金及繰入金	250,000	380,000	
③過年度収入金	0	0	
1. 会費	0	0	
④前年度繰越金	1,163,529	1,163,529	
1. 前年度繰越金	1,163,529	1,163,529	
収入合計	2,871,529	3,128,284	

支出の部			
科目	予算額	決算額	増減 △
①総務費	370,000	361,520	
1. 事務所費	100,000	100,000	
2. 事務渉外費	200,000	200,000	
3. 通信交通費	70,000	61,520	
②需要費	270,000	191,550	
1. 会議費	200,000	191,550	
2. 庶用費	70,000	0	
③事業費	1,150,000	1,206,000	
1. 事局対策委員会費	200,000	200,000	
2. 涅槃法要費	400,000	400,000	
3. 会報発刊費	300,000	306,000	
4. 本講会事業協力費	100,000	100,000	
5. 仏陀参拝費	150,000	200,000	
④助成金・負担金	100,000	70,000	
1. 助成金	70,000	50,000	
2. 負担金	30,000	20,000	
⑤雑支出金	100,000	100,000	
1. 過年度支出金	0	0	
2. 雑支出金	100,000	100,000	
⑥予備費	881,529	30,000	
1. 予備費	881,529	30,000	
合計	2,871,529	1,959,070	

次年度繰越金 1,169,214円
平成12年4月17日

上記のとうり収支決算書を提出致します。

横浜市仏教連合会　会長　齋藤隆法
会計　橋下賢明

監査の結果相違ない事を認めます。
平成12年4月17日　監査　野沢隆幸

第十七回春の仏跡参拝記

臨済寺

静岡葵博

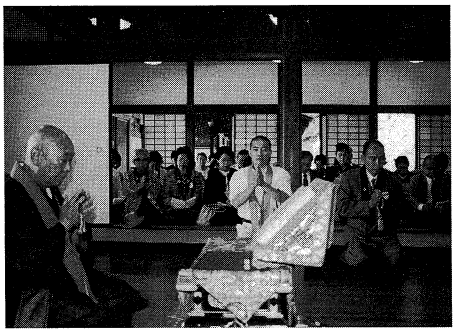
当会と市釈尊奉讃会の春の団参も第十七回目となる。平成十二年六月五日（日・友引）に実施。目的地は静岡市の臨済寺と静岡葵博覧会である。

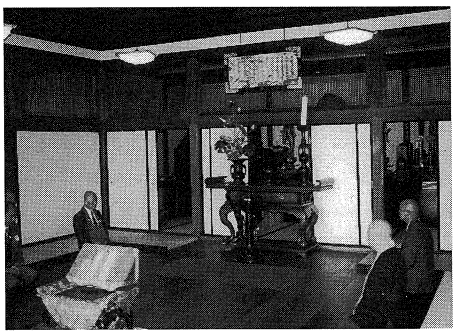
当日は晴。東名高速道路の海老名サービスエリアに三台のバスが終結した。一号車に金剛寺、三仏寺、長昌寺、西福寺、妙光寺、長天寺、最勝寺の三十四名。二号車に東照寺、常真院、福聚院の四十三名。三号車に保福寺、西福寺、西量寺、松蔭寺、見光寺、西有寺、遍照寺、大円寺の三十一名の総計一〇八名の参加があった。

八時に出発、日本平でトイレ休憩。富士山がよく見えた。ガイドさんの説明に聞き入り、首を左右に動かす。静岡市は東名高速の半分の距離にある。登呂遺跡（ところいせき）は一八〇〇年以上も前の弥生式農耕文化を今に伝えているが、最近は他県の遺跡の人気が高く、見学者も減少しているという。阿部川は南アルプスに源流を発する。昔は軍事上、主だった川に橋を架けない政策だった。東海道の丸子宿のところでは麦飯や貴重な砂糖をまぶした阿部川餅が名物となった。静岡市の人口は浜松市に次いで二番目、市域の広さも二番目である。戦国時代は今川氏の山城があり城下町であった。後に徳川家康が入居して駿府城下町として繁栄した。山城がJR東海の静岡駅の北側の小高い賤機（しずはた）山にあったところから静岡という地名がついた。午前十時すぎに静岡市小岩の臨済寺に到着。

臨済寺の仁王門前の参道両側に工事用のバリケード金網が置かれ殺風景だった。本堂前で記念写真を撮り、右手の庫裡玄関から上がり、本堂に入り、心経一巻を唱和し勤行、ご法楽を捧げた。齋藤隆法市仏連会長、鈴木市釈尊奉讃会会長等のご挨拶があった。臨済寺は修行寺で一般拝観が制限されているので、説明者がつかないということだった。ところが無理矢理に雲水さんをつかまえて沿革などをお願いした。急に案内役に指名された雲水さんは気の毒に俄か勉強をされて、我々の前に立たれた。寺記のコピーを読みでもたどたどしくも一生懸命になさっていただき、一同感心申し上げた。

臨済寺は臨済宗妙心寺派大龍山臨済寺と号す。賤機山（しずはたやま）は古代に目の荒い布を産したのが名称の由来だ。天文五年（一五三六）に今川氏の菩提所として、大休宗休門下の三哲の一人の太原崇孚（たいげんすうふ）雪斎を開山に、賤機山城の今川氏の本城の南側斜面の麓に創建された。この和尚は今川義元の軍師でもあった。天文十八年（一五四九）に八歳で今川氏の人質となった徳川家康が、この寺に通い雪斎和尚から読み書き、史書兵法などを十二年間に学び育てられた所である。武田氏と徳川氏の乱入で二度兵火にあい焼失。天皇の内命で家康が援助をして復興した。江戸時代初期に百石の寺領を与えられ、末寺五十七ヶ寺を有する大寺となった。





境内の中央に建つ本堂は方丈形式の荘厳な造りで、今から四一三年前の天正十五年に再建されたもので、重要文化財に指定されている。後奈良天皇より「勅東海最初禅林」の勅額を賜わり、大方丈正面に掛けている。市街を見渡せるこの禅寺にさわやかな緑の風が吹き抜け、伊藤博文の「薫風」の額文字に実感が湧く。本堂裏の庭園は山の斜面を利用した名園で、国指定の名勝でちょうど皐月の花盛りであった。本堂より一段高い大書院は趣きのある回廊で結ばれ、中に「家康手習いの間」があった。天井には狩野元信筆の竜が描かれていた。その東の岩崖に岩桧葉（いわひば）が群生している。その一段上に茶室の無想庵があるが、そこまでは見学させて貰えなかった。重要文化財の大方丈で、お茶の接待にあずかった。住職の我々は小書院で茶菓のごちそうになった。

現在の雲水僧は十五名ということだった。庫裡玄関を入ったところに掲げられている板額「常住規則」の第一条に「参禅最急務也。各宜勉励夜坐須準僧堂。古人日、動中工夫勝静中百千万億倍頼有此語謹勿怠惰」。第2条に「火触用心専要也」とある。他条文末。

妙心寺派教学部長で静岡市宝泰寺の藤原東演師は戒・定・慧の三学の実践の「定」について、次のように述記されている。やはり身心を調えて、自己を落ち着かせることが大切だ。ただ身心を直すのではなく、呼吸も調えて、自分を見つめることだ。だから禅門では坐禅をする。「自己とは何ぞや」と大いなる疑団を持つ。最初は雑念がとめどもなく湧いてきて心の乱れに驚くにちがいない。これが最初の自己を見つめる段階。坐り続けると、次第に心が澄んでくる。日常生活でいかに我見にとらわれ

ているか、痛感する。これが次の段階である。さらに自己の小我を見つめる。もう一つの「なにものか」に気づく。これが三番目の自己との出会い、これでは未（いま）だしである。悟った人は「さらに坐っていくと、自分がゼロとわかる。自分がないとき、触れ合う総てのものとひとつになれる。すばらしい自己に出会う」と言われる。その自在の働きを、「慧」と言う。この「慧」が働いて、初めて色があっても惑わされない境地、あってありつぶれの世界に遊ぶことができる。だから「空」がわかるには、自己の探求が第一義なのである。〈法語伝道聖句三昧・寺門興隆別冊〉。

臨済寺は静寂な禅道場の雰囲気に包まれ、訪れる者の心を洗い清める。雲水さんの親切な接待に当会一同、縁があってお詣りができ、ゆったりと過ごさせていただいたことを喜びとして下山した。

その後、製茶工場を訪問。茶の香りが出迎えてくれた。ここでしばしの昼食休憩。

一時半過ぎに、東静岡会場の市制一一〇周年記念の「静岡葵博」に到着。真夏日のように暑かった。NHK大河ドラマの葵・徳川三代のロケも行われているそうだ。家康は江戸から駿府に戻り、秀忠の後見人として天下の政治を見た。有名な駿府大御所政治である。家康公は漢方薬を自ら調合するなど衛生学の大家であった。一メートル五十三センチの身長で、かなり太っていた。元和二年正月に鷹狩りを終え帰城し鯛の天麩羅（てんぷら）を大食し、腹痛、吐瀉（としゃ）などの食中毒症状を起した。健康維持に自信があり、注意を怠らなかった人にしては迂闊（うかつ）だった。同年四月十七日に七十四歳で他界した。一説には胃ガンの悪化が死因といわれている。「我この剣をもって、ながく子孫を鎮護すべし」が辞世であり、二代将軍秀忠に「自分の死後も武道のことをいささかも忘れぬように」と命じ、息をひきとった。徳川幕府二百数十年の基を築いた家康、秀忠、家光の葵三代に思いを馳せ、博覧会場の出店の床机に腰をおろした。静岡市の花の立葵（たちあおい）がそこかしこに植えられ、もう咲いている。それから清水の市場に立ち寄り、土産品を買物し、夜七時頃に無事故で横浜に戻り、各々家路についた。

臨済寺常住規則

一、参禅最急務世各宜勉励夜坐須
準僧堂古人日動中工夫勝静中百
千万億倍頼有此語謹勿怠惰
一、火触用心専要也
一、二時食事若有要用而後衆則
可期二　座忽開鉢発声　為音且
供給一衆輪次進退勿勃卒
一、朝昏課誦及請出頭苟忽後東
一、分衛日飽請作務等大衆一統若
出頭不得則可報知知客察
一、往来他察閑談口語勿妨他
女有要用出入者事了速去暫勿
一、入部堅制之若不得也而出門外
則可報知客察出入暴慢生疎勿失
檀家（客）
一、病気不出頭之時必可報知客察
他察往来堅制之
一、夜坐解定後可速着臥単勿　燈
油打沸詰臥具等留念勿埃損
一、常住物宜護念勿一々用了須還
本所吾人日須□常住物如眼目
一、不詳草鞋乱着堂上堂勿□歩□
足音切宣慎細行□成大徳
至嘱
昭和二十四年十月朔

話材紹介

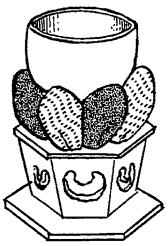
仏具を数えることば

僧侶のあるグループで、仏具・法具などを数える単位のことばが話題になった。今号の話材は、寺院で使う「物を数えることば」について取り上げてみた。

「つ」「個」など、数えることばを接尾助数詞と呼ぶが、日本語は和語・漢語などから成立し、漢字・平仮名・片仮名等で複合的に表記されるため、数え方も対象によって微妙に違って表現される。

例えば羽（わ）は、羽を持つ鳥類を数える言葉であるが、長い耳を羽のようになびかせて走るところから兎（うさぎ）を数える時にも使う。猫や犬を匹（ひき）と数えるが、これは雌雄そろう動物の呼び名から風習化したもので対という意味を含む。そのため、布地の長さの単位として二反を一匹と言うことがある。匹は馬の時にも使うが、普通は牛・馬のように大きな動物は頭（とう）を使う。これらは慣習として定着している。

しかし、「天蓋」「須弥壇」「如意」「木魚」…は何と言って数えれば良いのだろう。一個、二本、三つなどと総くくりにしてしまえばそれまでだが、的確に表現しようとして、ハタと困って原稿の筆が進まなかった。昔の什物帳、仕物帳などを参照して雑話的に記した。誤記、憶測も多いと思うが財産目録作成の一助になれば幸いである。



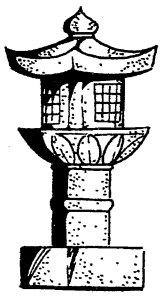
荘厳・供養仏具

〔天蓋・てんがい〕は、基（き）とか本（ほん）と一般的に用いられるが、掛（け）とか覆（ふく）とも使われるようだ。護国寺什物帳には釣（つり）とあった。なるほどとうなずける。

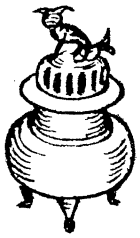
〔須弥壇・しゅみだん〕のように大きな規模の設備、丁重に数えていく仏具は基（き）と数え、業者もこの呼称をよく用いる。同様のものとしては〔施餓鬼柵〕家庭用の〔仏壇〕〔葬祭壇〕があるが、基の他に壇（だん）を用いたり、宇（う）と呼んだりする場合もあるようだ。また、密教寺院では〔大壇・護摩壇・密壇〕などがあるが、壇の他に面や通を用いて数えたり、他の密教法具と合わせて荘厳（しょうごん）と数えたりすることもある。

〔厨子・ずし〕は本来、仏舎利や仏像を納めたものを指すので、龕（がん）と数えるのが本義であろう。また、仏像本体とあわせて体（たい）と呼ぶこともある。

〔仏像・ぶつぞう〕は前述の通り体（たい）と数えるが、古い什物帳には旧字で〔躯（く）〕と記されたものが多い。また尊（そん）を用いる場合もある。

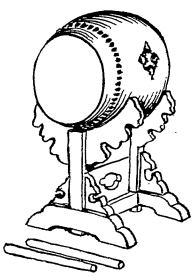


〔位牌・いはい〕は、死者の霊そのものと見て柱（はしら）や体と数えるのが妥当であるが、霊牌とみて基や本などと数えることもあるようである。〔遺骨〕も同様に柱、体と数える。〔墓石〕は基、柱の他、五輪塔の「地」に当たる部分が細長いため、旗やたんすを数える棹・竿（さお）が用いられることもあるという。〔塔婆〕は墓石と同義であり、基、体と数えるところであるが、現在の形状から本、枚（まい）と数えるのが通例となっている。



〔前机・まえづくえ〕は各種供養物を並べて置く台であるところから段（だん）と呼ばれるようであるが、仏具の定番呼称の基、台と記されている場合も多い。同様にこの上に乗せる〔五具足〕もセットで段と呼ぶのが正しいが、他にも具、通、組、揃、式などと俗称で呼ばれることも多くみられる。個々の香炉、燭台、花瓶は、個や本を使うが、二つセットのものは対（つい）という。香炉は口（く）と呼ぶそうである。

〔六器・ろっき〕など密教用器具は口（く）で数えることが多いが、受け皿の火舎（かしゃ）と合わせ一揃いのものを面（めん）と数えていくようである。



鳴らし物

〔梵鐘・ぼんしょう〕や〔鰐口・わにぐち〕などの鳴らし物は口（くち）と数えたらしい。他にも箇、個、ツ、ケなどとも記されている。〔木魚・もくぎょ〕や〔椰・ほう〕も口と数える。

〔磬子・けいす、きんす〕、〔砂張・さはり〕〔鈴・りん、れい〕などは一枚の金物から造り上げるため、元の材料の呼び名から枚（まい）と表されたらしい。〔磬・けい〕や〔雲版・うんぱん〕も枚というが、これらは実物も板状なので面（めん）とも数えたようである。

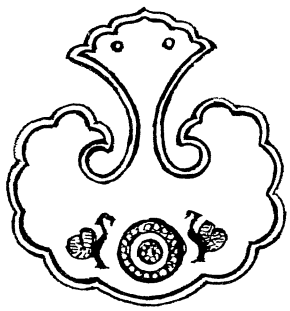
〔鐃鈸・にょうはち〕は本来別のもので鐃は銅鑼（どら）のことで単品で呼ぶときは枚（まい）。鈸は妙で一奏でることから妙鈸（みょうはち）とも呼ばれ、二枚一組のシンバル型であるので組、双、口と数える。二枚の内の一枚だけを半双という。曹洞宗では、二組で用いることが多く、両鈸（りょうはち）と称し、一組のみの時を片鈸（かたばち）と呼んでいる。

〔法螺・ほうら〕は螺（ほらがい）のことで、貝の呼称から推測すると枚と呼ぶのかも知れない。

〔引磬・いんきん〕は〔手磬・しゅけい〕とも呼ばれ、木の柄がついているところから本（ほん）と呼ぶようである。曹洞宗では導師の送迎用に正式には半音違いの二本一組（甲乙引磬）で使用するため一対と呼ぶようである。

〔槌砧・ついちん〕は別々の物の合成語で、槌（つい）は木槌のことなので本、砧（ちん）は台と呼んで数える。総じては組、対が適当であろう。

〔太鼓・たいこ〕は口や通と表され、前述の磬子も口と数えている什物帳もある。総じて鳴らし物は口が多い。なお、木魚のことを領（りょう）と数える什物帳が存するが、その理由はわからない。



その他

曲禄・きょくろく……脚
錫杖・しゃくじょう……本、柄、杖
洒水器・しゃすいき……口、皿、器
金剛杵・こんごうしょ…口、掌
五鈷鈴・ごこれい……口
華籠(皿)・けこ、はなざら…口、枚
幕(類)・まく……張
水引・みずひき……巻、張
袈裟・けさ……領、両、肩、匹
法衣・ほうえ……領、着、枚
白衣・はく(びゃく)え…点、重
袴・はかま……腰、具
座具(蒲)・ざぐ(ふ)……枚
絡子(安陀衣)・らくす…掛、肩
帽子・もうす……冠、掛、枚、頭
帯・おび……条、莇
襪子(足袋)・べっす……足
念珠・ねんじゅ……連
朱(手)巾・しゅきん……本、重
幡(憧幡)・はた……流、掛
中啓(檜扇)・ちゅうけい…口、本
払子・ほっす……口、本
如意(笏)・にょい……口、本
掛軸、書画……幅、点
斗帳・とちょう……重
柄香呂・えごうろ……柄、器
手(角)香呂……口、ツ、台
三方(宝)香台……口、ツ、脚
礼盤・らいばん……具、壇
屏風・びょうぶ……双、枚

燈籠・とうろう……基

まとめ

燈台元暗しというか、難しいものだ。冒頭で紹介したグループの成果を拝借し、什物帳、辞典、仏具カタログ等を駆使したが、現在は用いていない数え方もあろう。多く使われる語は「基」「躯」「口」「具」「流」などで、仏具・法具の教え方の特徴といえよう。

故柳下隆侃大僧正の思い出

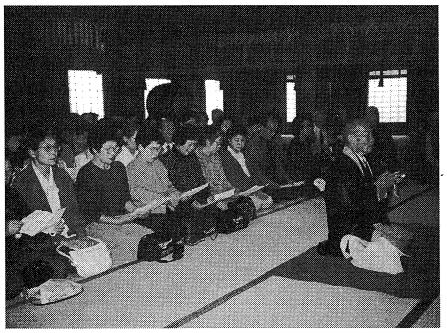
副会長　玄野孝善

今年の八月二十三日、元横浜市仏教連合会長「柳下隆侃師」がご遷化されたと訃報をいただき、一瞬耳を疑う気持ちでした。

と、申しますのも柳下師とは、市仏連で十年余、ご一緒に仕事をお手伝いさせていただく中においていろいろとご教授をいただきました。昭和五十六年五月、総会において会長にご就任いただいたおり、柳下さんのお名前はなんとお読みするのですかと、私がお尋ねすると「リュウカン」とよみますとお答えいただき「私はすぐに風邪をひくので流感と覚えて下さい」と説明され、思わず苦笑してしまいました。しかし、お体は流感にも犯されず、お元気で仏教会活動に奉讃会活動にご活躍戴きました。

その思い出の一つに、昭和五十九年十一月に川崎大師で文化講演を聞き精進料理をいただく会を催したところ、あの大きな本堂がいっぱいになるほどの参加者がありました。その中で隆侃師は「この世で一番大切なのは命であります。その命を大切にして、仏恩をほどこすことに目覚めなければならない」と説法されたのが昨日のように思われます。

また、平成二年四月には市仏連再発足四十周年記念事業には、身も心もなげ打って大成功のうちに円成しましたのも隆侃師のご尽力の賜物と深く感謝いたします。



密厳浄土に赴かれましても、私達をお[illegible]いただきますよう念じて筆をおかせて戴きます。

故柳下隆侃師略歴

大5年4月13日、静岡県生まれ
　7才で川崎大師平間寺に入寺
昭3年8月、高橋隆超師の下得度
　真言宗智山派の行位を修める
昭29年、港北区観音寺住職就任
　同時に平間寺に参与として勤務
昭44年、神奈川県宗教連盟理事
　至平成10年まで
昭56年4月、当市仏連会長に就任
　至平成2年まで
昭58年4月、県仏副会長に就任
　至平成10年まで
昭61年4月、大僧正に任ぜられる
平元年4月、教誨師会会長に就任
平2年4月、当市仏連顧問に就任
平7年4月、藍綬褒章を受ける
平12年8月23日、遷化（85才）

支部だより

瀬谷区

四月九日（日）総会、於妙光寺。第二十六回市仏涅槃会の会場及講師その他の件について会合。その結果会場は、瀬谷区上瀬谷町八一三、日蓮宗妙光寺で、講師は、伊勢原市沼目三一十二一二、真宗大谷派三寶寺住職、目崎法薫師に依頼する、又、今後涅槃会の臨時総会を開催すること等決定。会場と講師の両住職にはこころよく承諾していただきました。

今回も瀬谷八福神を紹介させていただきます。福禄寿の宗川寺は布袋尊の西福寺から南へ一キロメートル中原街道沿いにある。この街道は大変交通量が多く、住職の井出教道師は悲惨な交通事故が少しでも無くなることを祈願して、沿道の門前に交通安全観音さまを建立、赤色点滅灯でドライバーの方々に安全運転の励行を喚起されています。中原街道から総欅造りの山門を入ると左右に師の名木古木に指定された樹齢二百五十年の夫婦銀杏の大樹がある。更に奥には古木の桜が境内を覆いつくすように枝葉をひろげ、開花頃の参拝も特におすすめ致します。福禄寿堂は本堂正面の右側にある。宗川寺は日蓮宗で本山は身延山久遠寺。開祖は寛永二年日蓮宗興統門流第十二世日賢上人。開山は石川宗川。福禄寿は短躯・長頭・長ひげで杖口経巻を結び多数の鶴を従えている。幸福・奉禄・長寿の三徳を備えたお目出たい神である。「参拝者のマナーについて私的雑感」参拝者の中にはマナーを心得ずして本堂のご本尊さまには目もくれず、福神さまだけに突進?、これでは庇を貸して母屋を取られる感がある。参拝するにあたっては先ず本堂のご本尊さまから是非おまいりをしていただきたいものである。仏縁の為にも。

金沢区

金沢区仏では恒例の行事として次のことを行った。

一、釈尊降誕奉祝花まつり大会
　四月二日、六浦町浄土真宗長生寺に於て百五十名ほどの壇信徒を集めて盛大に挙行した。

一、春の奉讃会共催の一日旅行
五月二六日、一一四名の参加者を特バス三台で北関東方面の古刹を巡拝した。
高崎郊外　達磨寺
水沢観音
一、教化新聞　慈光発行
七月一日、慈光第一〇四号を発行する。
今回は元市仏事務局長で金龍禅院閑栖、志村慎吾師の「私の二十世紀」と題する自伝のほか、金沢文庫副文庫長、高橋秀栄氏の「時には観音菩薩のように慈悲深く」と云う名の観音信仰にまつわる随筆が眼を引いた。
一、仏教文化講演会
八月二六日、参加者約四〇〇名第一部は式典のあと、パーカッションアンサンブル「ドライブ」による演奏、早春賦からマンボ55に至る演奏に会場は大いに沸いた。
第二部はポール牧氏の講演。聴衆は氏の熱弁に全く魅了された。

都筑区

各寺院にとっての忙しい暑い夏が終わり、区仏の活動も後半期に入りました。まず神奈川県宗教連盟主催の文化講座を9月4日（月）神奈川県民センターでの講演「悠久のいのちを生きる」映画「日本の美・木阿弥光悦」に参加。11月2日(水)～10日(金)には横浜市仏教連合会・横浜市釈尊奉讃会秋の参拝旅行の日光山輪王寺大猷院廟奥の院参拝にも参加予定。又後半期計画の目玉として初めての試みである。行政との協力で行なう、福祉の市という「障害者の自立と地域社会への参加」の催しで、真言密教の声明コンサートを区内駅構内で11月11日(土)に開催。前回の浄土宗の声明とは又違った形を区民の皆様に聞いていただけると思います。区内各寺院の活動と共に良い形で連携しながら少しでも広がりのある仏教会になればと思っています。

戸塚区

四月八日（土）区仏花祭り挙行。
会場は戸塚班善了寺にて行なわれ、戸塚班各寺院の総代世話人さん方例年のことながら積極的に事前準備、当日の受付、接待、整理等御協力を頂きました。特に子ども達が数十人集まり一人一人潅仏をしました。みんなよい子になることを心に深くお誓いしたことかと思います。
アトラクションでは人形劇、南京玉すだれ等大きな拍手を受けました。やさしい日射しの中、法要・アトラクション等、一時間に汎る行事も楽しく終わることができました。

六月二十二日（木）区仏総会。
予算決算等無事終了。尚、新に中川地区より新理事として気鋭の佐藤広海師就任報告がなされました。今後の御活躍を期待しています。
八月二十六日（土）川上地区倫勝寺では例年による地蔵盆夏祭りが挙行されました。これは「誓願千灯法要」として地蔵様、観音様の御前で御先祖の御名前、誓願等を小さなお塔婆に記し、法要後お焚き上げする行事です。
午後四時半より法要、引続き素人芸能等が披露され、二時間に汎る百数十名に及ぶ善男善女人しばし法悦にしたり時間を惜しみつつ会を閉じました。

●事務日誌

12・5・1　弔電　神戸町　天徳院
12・5・12　総会案内状発送
三役会議
12・5・26　第27回総会
12・5・31　祝電　保土ケ谷　旭区
12・6・5　第17回春の仏跡参拝
（静岡県臨済寺、葵博）
12・6・11　三役会議
12・6・20　会報50号発送
12・8・1　会報51号原稿依頼
12・8・20　奉讃会だより発送
12・8・25　弔電　港北区
12・8・30　柳下隆侃師本葬儀
12・9・8　会報編集　於長昌寺
12・10・3　祝電　神奈川区
12・10・5　県慰霊堂（磯子区）
12・10・30　会報編集　於東泉寺
12・11・2　三役会議
12・11・6　県慰霊堂（港北区）
12・11・8～10　秋の仏跡参拝
日光大猷院廟、福島

●編集後記

◎柳下隆侃師、元市仏連会長のご遷化に接して、力強く市仏連活動を引っ張り、盛り上げられた功績に感謝の念でいっぱいである。師の最期は、宗祖弘法大師様に倣い、五穀断ちをして、終息の時には入定の印を結ばれての大往生だったと寺族から伺い、感銘を深くした。
◎親による児童虐待が急増、少年による暴行殺人の多発、大人による保険金殺人の続出、そして保険会社の倒産も相次いだ。政治、経済、教育、宗教界等、自己中心主義の我、特に拝金の欲望肥大が臨界点に達して、社会の正常さが失われて、どこもかしこも崩壊現象だらけである。寺院僧侶に何ができるのだろうか。暗澹たる思いである。
◎諸行無常、諸法無我の真理を自覚して、人にも説き、一つひとつの日常生活に充実感をもたらすというのが、仏家、壇信徒の信仰であろう。何故、葬儀をするのか？と一般の人に問われて、明確に答えられるだろうか。お坊さんの生活のためにはやらない。お金がかかるからしない。仏家が壇信徒からでさえも葬儀の導師としての出仕を求められない時代になりつつある。何としたものだろうか。
◎十一月一日付の産経新聞のコラムに政治学者の舛添要一氏の論評があった。葬儀料は布施でなくて正当なサービス事業として価格を公表し、心の救済とは別立てにした方がいいと主張する。不透明だから散骨が増えて寺離れが進むとも…。果たしてそうであろうか。葬儀、法事の儀式こそ大切な心の救済の機会であることは多くの会員諸師の知るところであろう。万人救済の理念からすれば、定価のあるサービス価値の葬儀となると、供養、布施の精神そのものを放棄したことになるのではなかろうか。正念場の時が来ている。
◎今号の話材は、閑話休題気味で生死の一大事に関係した皆様に役立つものを企画できなかったが、調べていておもしろかった。仏事にまつわることは実に奥深いものである。